転職列伝

TENSHOKU RETSUDEN

第31回

村口和孝

41歳

ジャフコ

▼

日本テクノロジーベンチャーパートナーズ投資事業組合代表・ベンチャーキャピタリスト

1998年春、イスラエルのVC事務所を訪問

自分を表現できる環境が大事

私がベンチャーキャピタル（以下VCと略）を知ったのは、慶應義塾大学経済学部在学中にとったゼミでのことでした。ちょうど「経済ってなんだろう」と考えていたころだったので、もっと知りたいと思い、アルバイトでリサーチの仕事を経験後、本場のアメリカ・シリコンバレーへ行きました。90人くらいのキャピタリストに面談を申し込み、VCについて話を聞いて回りました。

ジャフコ入社後も、自分の仕事が間違っていないかどうかを確かめるために、ボーナスと休暇を使って知恵くらいアメリカに行きました。私が当時の日本では思惑ばかり大胆と評された投資活動ができ、成績トップという結果を出せたのも、アメリカでの「調査」のおかげだと思います。

95年にネットスケープの株式公開に遭遇してからは、社内でVC改革の必要性を説いて回りました。しかし、イスラエルを訪れた時に、日本でのベンチャービジネス投資支援の遅れをさらに実感、「ここから先は他人とか組織ではなく、自分自身が行動しないといけない」と考えるようになりました。「売りの設計機の中小会社を改革し、「スタートアップの会社に投資できるような環境を創るために頑張ったら」と決断を後押ししました。

VCは非常に流動化している業界なので、どんなタイプの人が向いているかは一概に言えません。でも実際面接してみると、以前よりもブランド志向がなくなりつつあり、「可能性があればベンチャーも」という想いを持った人が明確に増えているのを感じます。

私は、若い人の価値を、大気いいことだと思います。収入が減ることを恐れ、機会逃いと言う人が多いでしょうが、それぞれの価値を最大限できる環境の方がずっと大事です。「収入がゼロになってもやってやる」くらいの心構えと、常に挑戦力を高かせることが必要になるでしょう。自分が世の中で何をやりたいのか確保した上で行動すれば、どんな時にも踏ん張りがきくし、後悔しないでやっていけると思います。そんな人たちを応援することが私の仕事であり、楽しみでもあります。